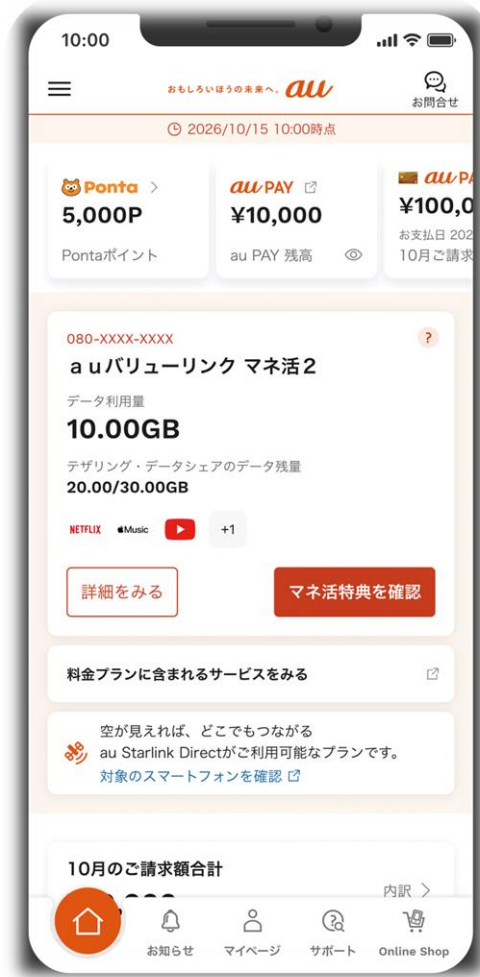


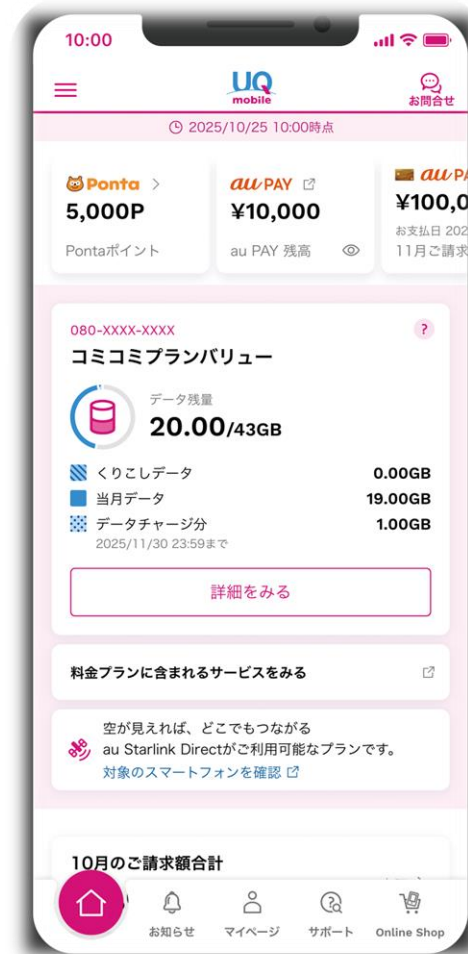
14. KDDI株式会社

My auアプリ/My UQ mobileアプリ

機器・サービスの概要	auおよびUQ mobileのご契約者さま向けに、生活インフラとしての通信サービスに加え、金融・でんき・エンタメなど暮らしに密接に関わるサービスのご契約内容や利用状況を一元管理できるアプリです。
機器・サービスの機能	<ul style="list-style-type: none">● 毎月のご利用料金やデータ利用量、および残量の確認ができます。● 通信サービスのご契約プランをはじめ、各種ご契約内容の確認および変更のお手続きができます。● 電話窓口に加え、24時間対応のチャットサポートからもお問い合わせができます。● auおよびUQ mobileからの大切なお知らせだけでなく、お客さまひとりひとりに合わせた特別なご案内を受け取ることができます。
情報アクセシビリティの配慮内容	<p>お客さまから特にご要望の多い「操作性の向上」と「見やすさへの配慮」を優先的に対応しています。</p> <p>①操作性の向上 音声読み上げ機能(スクリーンリーダー)やキーボードのみによる操作に対応しています。また、画像の内容を音声で伝える「代替テキスト」を付与するなど、目からの情報取得が困難な状況でも内容を把握できるよう配慮しています。</p> <p>②見やすさへの配慮 端末の設定に合わせた文字サイズの最適化や、十分なコントラスト比の確保を行っています。また、色のみならず番号などを併用することで、色覚特性を問わず直感的に理解できるデザインを採用しています。</p>
問合せ先	KDDIウェブアクセシビリティ推進事務局 web-accessibility/atmark/kddi.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。



My auアプリ



My UQ mobileアプリ

KDDI株式会社 My auアプリ/My UQ mobileアプリ

当事者ニーズを踏まえた開発

- 【企画・設計段階での検証】
 専門家によるレビューやユーザーテストを実施し、具体的な課題の把握と改善を行っています。例えば、音声読み上げ機能については、日常的に同機能を利用している当社グループ社員によるテストを実施し、当事者の視点から得られた意見や要望を反映しています。また、ご利用料金のグラフなど、利用頻度の高い機能については、アクセシビリティ基準を満たす設計を前提とした上で、Webアンケートや年代別のユーザビリティテストを実施しています。これにより、「誰もが利用できる(アクセシビリティ)」と「快適に利用できる(ユーザビリティ)」の両立を図っています。
- 【開発プロセスの標準化と継続的改善】
 要件定義書にアクセシビリティ項目を含めてテンプレート化し、標準的な開発プロセスとして確立しています。サービス提供開始後も、お客さまの声の収集や定期的な専門家レビューを継続し、そこで得られた知見を次なる「企画・設計」へ還元。改善プロセスを繰り返すことで、サービスの品質を持続的に向上させています。

企業としての組織的な取組

- KDDIグループではウェブアクセシビリティへの対応を経営における重要な人権課題、またサステナビリティ経営の一環と位置づけ、「KDDIグループウェブアクセシビリティ方針」を定め、組織的に取り組んでいます。グループ横断の事務局を中心とした推進体制のもとWCAG2.2 AA達成に向けた段階的な目標を設定し、ウェブサイトやアプリの対応、浸透活動を推進。GAAD Japan 2025ではその取り組みを対外的にも発信しています。
- ウェブサイトやアプリでの対応においては、具体的な達成基準に加え、達成までのプロセスや運用方法までを独自のガイドラインとして順次拡充させており、社会全体のアクセシビリティ向上に貢献すべく一般公開も目指しています。
- 25年度はグループ配下でウェブサイト・アプリを主管する部門がセルフチェックできるツール・マニュアル類の整備、ブランド表現とアクセシビリティ対応を両立するUIカラーガイドやブランド共通デザインシステムの構築により、サービス品質の向上と標準化を進めています。
- 浸透活動においては、トップから現場までの役割別教材や先行サービスの事例を、会議体や勉強会、Eラーニングで展開。一部は全社員必修としアクセシビリティの理解とスキル浸透を強化しています。

審査結果の概要



多様なユーザーに配慮したアクセシブルなアプリ設計

- グラフの非色依存化、コントラスト補助機能、画像をテキストで代替または補足するなど、色に頼らず理解しやすいデザインに配慮されており、高齢者を含む幅広い層に実用性が高い点が評価された。



当事者参加型プロセスによる継続的な改善

- 企画開発段階から視覚障害のある社員やアクセシビリティ専門家によるレビュー、幅広い年代への調査を実施し、多様なユーザーからのフィードバックを開発に反映している点が評価された。



経営層を含む組織的なアクセシビリティ推進

- 人権尊重の視点からアクセシビリティを推進し、グループ全体でロードマップを描き取り組んでいる点が評価された。
- 企画・開発段階からのアクセシビリティ要件の取組み、独自ガイドラインの公開、必須研修などを通じ、組織的・継続的な取組みを推進している点が評価された。